

No.025 (不定期刊)

“Great Wall” Street Journal

# 長城街日報

～中国株の現場から～



東洋証券株式会社  
上海駐在員事務所 所長  
奥山 要一郎  
2007年入社。本社シニアストラテジ  
スト等を経て、2015年より現職

## マイボトル、マイライフ

「おい！ マイボトルを持ち込んでいるぞ！」——。ネット上で、いわゆる“中国クラスタ”がザワついた。先週、大阪で開催されたG20サミット。その会議の場に、中国の習近平・国家主席が自前のステンレスボトル（水筒）を持参したのだ。いかにも中国らしい光景に、親しみを感じた者も少なくなかった。

★ ★ ★ ★ ★

中国では自分の飲み物を持ち歩くためにマイボトルを使う人が多い。オフィスはもちろん、出張や旅行の際にも持参する。以前は、インスタントコーヒーなどの空き瓶を再利用して即席のマイボトルにしている人も見かけたものだ。

なぜ皆が持っているのか。答えの一つは、温かいものを飲む習慣があるから。東洋医学の観点から、中国人は身体を冷やさないことを重視している。「冷たい飲み物は胃を痛め、温水は胃を温める」という概念も根強い。よって、中国のレストランに「冷たいウーロン茶」というメニューはない。生温かいビールが出てくることもあり、「冷えたビールでね！」と念押しすることもある。

マイボトルの人気は日本製。象や虎の印が付いた製品のシェアが高い。日本製は高品質で、お湯が冷めにくいという評判もある。中国でも輸入品を買えるが、やはり本場で買うのがベスト。お土産にもぴったりなので、日本の家電量販店には訪日中国人客向けのステンレスボトルが並んでいる。

マイボトルの中身はお茶が多い。各自、思い思いの茶葉を入れてお湯を注ぎ、茶葉が沈んだところを見計らって“上澄み”を飲む。自



列車内でも常時、温かいお茶を楽しむ

分で調査したこだわりの漢方茶を飲む人もいらしい。茶葉を取り替えながら飲み続け、1日が過ぎていく。オフィスの給湯室の三角コーナーは、夕方にもなると開き切った茶葉で一杯になる。

出先でもお茶を楽しむため、給湯器は必須だ。オフィスにウォーターサーバーがあるのはもちろん、駅や空港、高速鉄道の車内などには共同の大型給湯器が常備されている。飛行機の中で客室乗務員に「お湯を入れてください」とマイボトルを差し出す姿もよく見かける。

給湯器が役に立つのはお茶のためだけではない。例えば即席カップ麺。乗客が駅の売店でカップ麺を買い込み、列車の中でズルズルと食すのは日常茶飯事だ。日本と中国の新幹線（高速鉄道）の違いと聞かれて真っ先に思い出すのはその“ニオイ”。中国の車内では「紅焼牛肉」（牛肉の醤油煮込み）味のラーメン臭がプンプンするときもある。即席麺最大手の康師傅（カンシーフ）は、このマーケットを狙い中国ビジネスで大成功した。

★ ★ ★ ★ ★

安倍首相が国会にマイボトルを持ち込んでいることも一時話題になった。答弁の合間にゴクリ。その中身は、ゴルフのスコアと共に国家機密と言ったところだろうか。また、米国のトランプ大統領はG20夕食会においてマイグラス（？）でコーラを口にしていた。お好みのマイコーラかどうかは定かではないが。そして、ロシアのプーチン大統領も同夕食会においてマイカップ（マイタンブラー）で乾杯。こちらは、何かを警戒しているという深い諸事情があったのかもしれないけれど……。

文中の見解は全て筆者の個人的意見です。写真、グラフ、表なども全て筆者によるものです。

最終頁に重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

# ◆ 注 意 事 項 ◆

東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第121号  
 日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 加入

## 外国証券等について

・外国証券は、日本国内の取引所に上場されている銘柄や日本国内で募集または売出しがあった銘柄等の場合を除き日本国の金融商品取引法に基づく企業内容等の開示が行われておりません。

## 手数料等およびリスクについて

### ① 国内株式の手数料等およびリスクについて

・国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2420%（税込み）、最低3,240円（税込み）（売却約定代金が3,240円未満の場合、約定代金相当額）の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

### ② 外国株式等の手数料およびリスクについて

・外国株式等の売買取引には、売買金額（現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買の場合には加え、売りの場合には差し引いた額）に対して最大0.8640%（税込み）の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式等は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

・国内店頭取引については、お客さまに提示する売り・買い仕切価格は、直近の外国金融商品市場等における取引価格等を基準に合理的かつ適正な方法で基準価格を算出し、基準価格と売り・買い仕切価格との差がそれぞれ原則として2.75%（手数料相当額）となるように設定したものです。当該仕切価格には手数料相当額が含まれています。

### ③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

・投資信託のお取引にあたっては、申込（一部の投資信託は換金）手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

## 利益相反情報について

この資料を掲載後、掲載された銘柄を対象としたEB等を東洋証券（株）が販売する可能性があります。

東洋証券（株）および同関連会社、またその役員は、この資料に掲載されている企業の証券を保有する可能性、取引する可能性があります。

## ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をご覧ください。

この資料は、東洋証券（株）が各種のデータに基づき投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成したもので、投資勧誘を目的としたものではありません。また、この資料に記載された情報の正確性および完全性を保証するものでもありません。この資料に記載された意見や予測は、資料作成時点の見通しであり、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

この資料に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、東洋証券（株）は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。株価の変動や、発行会社の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがありますので、投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

なお、東洋証券（株）および同関連会社の役員またはその家族がこの資料に掲載されている企業の証券を保有する可能性、取引する可能性があります。

この資料の著作権は東洋証券（株）に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。

東洋証券株式会社

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1  
 TEL 03 (5117) 1040

<http://www.toyo-sec.co.jp/>

2019年7月1日  
 審査部審査済